

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 10日

事業所名 ほしぞら

	チェック項目	はい	いいえ	わからない	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10			2 利用者が多い時には、活動室を分けて活動している。	
	2 職員の配置数は適切である	12			スタッフ間で連携できる体制をとっている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。	12			ロッカーに顔写真を貼り、分かりやすくしている。タイムスケジュールを掲示したり絵カードなどを活用している。	新規利用者のロッカー写真などの作成が遅くなってしまうことがあるため、スタッフでしっかり共有しなるべく早く準備するようにしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12			支援前と支援後の2回清掃・消毒を行い清潔に保たれている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参加している	8			4 月2回のミーティングや朝礼・昼礼・夕礼・モニタリングなどで情報共有し、目標設定や振り返りを行っている。	非常勤職員は毎回参加していないので、周知しきれていない部分もある。「年間モニタリング実施表」が掲示してあるので、個々で確認してもらおう全職員に周知していく。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10			2 保護者等向け評価表の集計結果を職全員に周知し、業務改善につなげている。またイベント後にアンケートを実施しご意見やご要望を伺い改善につなげる努力をしている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10			2 保護者等向け評価結果及び、自己評価結果をホームページにて公開している。	
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12			研修案内を職員全員に共有し、研修の機会を確保している。	
適切な 支援の 提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	11			1 アセスメントをもとに利用者や保護者のニーズや課題を検討し、計画書を作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	11			1 絵カードやホワイトボードを使って視覚的に理解できるよう支援している。	
	11 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	10			2 家庭連携や事業所内相談支援により保護者から相談内容や要望を聞き取り、職員間で話し合い支援内容を設定している。利用者の発達状況を見ながら必要に応じて関係機関と連携し、支援内容を共有している。	
	12 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12			支援者会議やモニタリング、日々の共有時間に支援内容について検討し支援している。	目標や支援内容を全ての利用者分、覚えているか自信がない。掲示するか、すぐ手に取れる位置に置いておくことはできないか? 個人情報観の観点から、鍵付き書庫に保管が定められているため、支援に入る前にモニタリング報告書などを確認し支援に入ってもらおう。
	13 活動プログラムの立案をチームで行っている	11			1 定期的に活動会議を行い、活動内容を決めている。	
	14 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	1		1 活動会議で決めた内容を、活動予定表として利用者に配布している。	固定化してしまっている気がするため、新しい知識を身につけていきたい。
	15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	12				
	16 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12			毎日朝礼・昼礼などを行い支援内容や活動内容を共有している。	朝礼で活動内容がはっきり決まっていない時がある。朝礼で共有することにより改善点が見つかり、午後の支援までに見直しができるので朝礼時までに活動内容・支援内容を徹底して決めていきたい。
	17 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11			1 毎日、夕礼会を行い支援報告や活動の振り返りなどを話し、次につなげている。	
	18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	3		2	日々の支援に関しては連絡帳に記載、活動に関しては、夕礼会で振り返りはしているが記録をとっていないため、日々の振り返りなど記録をとるようにしていく。
19 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12					
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	10			2		
21 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1		5	コロナ禍の為、外部とのやりとりが取りにくくなった。	

関係機関や保護者との連携	22	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9	1	2	保育園・学校が作成している「あゆみの会」に参加したり、送迎時に情報共有は行っている。	
	23	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	2	4	送迎時に情報共有したり、必要に応じて相談員に支援者会議を開催してもらっている。	
	24	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	1	3	必要時には福祉課、基幹相談支援センターに相談し適切な研修の案内をもらっている。	
	25	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	8	4		コロナ禍のため、交流する機会がない。
	26	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	10		2		スポーツ交流会開催予定であったが、コロナのため中止になってしまった。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12			毎月、家庭連携・事業所内相談支援時に支援内容や困りごとについて話ができています。	
	28	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		4	契約時になるべく分かりやすいように、説明している。	
保護者への説明責任等	29	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12			家庭連携時に支援内容の説明をし、保護者の同意を得ている。	家庭連携時に計画書作成のタイミングが合わない時は、送迎時に説明をして同意を得ている時もある。なるべく家庭連携時に合わせて説明を行うようにしていく。
	30	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12			年2回保護者会を行っている。また要望があれば、事業所に来ていただきお話をする機会を作っている。	
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		2	年2回の保護者会や、イベント時など保護者同士の交流を図っている。	前回のアンケート結果に「事前に内容がわかっていたら参加したかった」との要望があった為、事前に次第を配布し興味を持っていただいた保護者が参加できるように改善した。
	32	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	11		1	家庭連携時や送迎時に相談などがあった場合は、すぐに共有し対応している。	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12			毎月、通信を作成し保護者に配布している。	写真が多いのも喜ばれると思うが、その時の様子を文章も入れて伝えた方がより伝わるのではないかと。以前は活動内容の説明など文章も入れていたので、共有し改善していく。
	34	個人情報の取扱いに十分注意している	11	1			十分注意しているが、徹底のため再度職員に周知を行った。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9		3		
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10		2	事業所の夏祭りに、近所の方を招待した。今後も続けていきたい。	
非常時の対応	37	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12			1年に1回活動にて消防署での訓練を受けている。その他活動にて年に3回程度、避難経路確認や避難訓練を行っている。	
	38	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	11	1		事前にアセスメントし、可視化している。	新しいスタッフなどにも再度共有していく。
	39	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12			ヒヤリハットや事故報告は、同一法人内で共有し気を付けている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	11		1	虐待防止については、全職員必ず毎年内部・外部などで研修を受けている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	10		2	やむを得ず身体拘束を行う可能性がある場合は、保護者に説明をし同意書に署名をいただき計画書に記載するようにしている。	全職員に周知を行う。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。